



聖霊病院におけるこれからの地域医療連携 医療と介護の連携を推進します。

4月1日付けで、聖霊病院地域医療連携センターにセンター長として赴任しました古城と申します。前病院(名古屋第二赤十字病院)では、11年ほど地域医療連携に携わって参りましたが、病院の使命・役割も異なりますので、心機一転初心に戻り頑張る所存です。

「地域医療連携」とは、患者さんの病状にあった継続性のある医療を適切な場所で切れ目なく提供することを目的とし、地域の医療機関がその機能を分担し、連携することにより助け合ってい

くしくみです。その中で当院の役割分担は、中等度の救急患者さんの受け入れ機能、病状は落ち着いたが自宅に帰るにはまだ足腰に不安が…と言う方の在宅復帰に向けた機能、人生最期に寄り添い苦痛を和らげる看取りの緩和ケア機能を担うことです。言わば、地域多機能型のハブ病院を目指しています。そのため、地域医療連携センターは、入院早期から退院直後まで切れ目のない支援を行い、患者さんが早期に住み慣れた地域で療養や生活を維持できる

よう、医療と介護の連携を推進していきたいと思っております。そして、地域の皆さまから、「何かあれば聖霊病院がある」「聖霊病院なら安心だ」と思ってもらえるよう皆さまに愛される病院、信頼される病院、なくてはならない病院でありたいと思っております。



地域医療
連携センター
センター長
古城敦子



院長 Message

Message of the
hospital
superintendent

令和元年5月
病院長 森下剛久

令和の時代に

4月に最大規模の新入職者を迎え新鮮な風を感じつつ令和という新たな時代が始まりました。慢性的なデフレと消費低迷、働き方改革と消費税率アップ、AIの台頭と高速通信技術、少子高齢化と生き方の多様性、革新的だが高

額な医療技術や新規薬剤の登場など、予測不能な変化がかつてない規模で溢れています。このような時代にあっても聖霊病院はその設立理念に則り揺るぎない意志をもって地域における役割を果たしていきたいと思っております。

病気の基礎知識

自覚症状がないため、転倒骨折などで初めて発見されることが多い病気です。

骨の新陳代謝のバランスが崩れることで起こります。

骨粗鬆症は、骨の新陳代謝のバランスが崩れることで起こります。骨芽細胞が新しい骨を作り、破骨細胞が古い骨を分解・吸収することで新陳代謝が行われ、それを司るのが女性ホルモン・エストロゲンです。女性は、閉経を迎えるとエストロゲンの血中濃度が低下し、新陳代謝のバランスが崩れていきます。エストロゲンが豊富な時期は、骨を作る勢いが勝っていたのが、エストロゲンの濃度が低下すると、骨を壊す方が優勢になり、骨が弱くなってしまいます。一方、男性は、細胞内で男性ホルモンを女性ホルモンに置き換えており、



80歳を超えて男性ホルモンが減少してくると、新陳代謝が低下し、骨粗鬆症を発症しやすくなります。

「沈黙の疾患」とも言われ 自覚症状がないのが難点。

骨粗鬆症が怖いのは、痛みやかゆみなどの自覚症状がないことで、「沈黙の疾患」とも言われています。骨折して初めて骨粗鬆症と判明することが多く、ある大学の調査によれば、骨折前に判明するのは、全国平均で20%程度しかありません。また高齢者が要介護になる原因は様々ですが、上位5つのうちの1つが「転倒骨折」です。そのほかには、脳卒中や関節疾患などが挙げられますが、ほとんどが突発的に発症したり、老化により避けられない疾患です。その点、転倒骨折は、骨粗鬆症の治療をきちんとしておけば未然に防げる可能性が大きいです。要介護とならないために、骨の健康状態を把握し、治療することが大切です。



診療部長メッセージ

ご自身の骨の健康を見つめると、
お子さん、お孫さんの
骨を守ることに繋がります。

整形外科 救急部長
青木良記



骨が最大骨量に達して一番強くなるのが20歳前後です。私は「貯骨」と表現していますが、この時期までにどれだけ骨を強くすることができたかが将来の骨の健康に影響します。骨粗鬆症検診は40歳から受検される方が多いことから、ご自身の骨の健康状態に初めて目を向ける時期が、実は子育て世代という方も多くいらっしゃいます。これまでも聖霊病院の骨粗鬆症リエゾンチームは幅広

い世代に、骨折予防、そして健康寿命延伸を目的とした啓発活動も行ってきました。啓発活動を通じてお伝えしているご自身の骨を守るための「食事」・「運動」・「日光浴」は、お子さんやお孫さんの将来にわたって骨を守る「貯骨」につながります。今後は啓発活動の幅を拡げて様々な世代に向けた活動を展開していこうと考えています。

治療の 基礎知識

予防・治療のための三原則は、「食事」「日光浴」「運動」。子どもの頃の外遊びが重要。

日々の食事に気を付けるほか日光浴をすることも大切。

骨粗鬆症予防の基本三原則は、「食事」「日光浴」「運動」です。食事については、乳製品、大豆製品、小魚、緑黄色野菜、海藻などに多くのカルシウムが含まれるため、これらの食品を意識的に摂ることが大切です。ただ、カルシウムを体に吸収するにはビタミンDが必要。どれだけカルシウムを摂取しても、ビタミンDが少ないと、カルシウムの吸収はうまくいきません。食事以外にも日光浴をすることで、体内の脂肪細胞でビタミンDが作られ、その量を増加させることができます。また、高齢になり運動する機会が減ると、体を支える



る骨の機能が衰えていきます。骨に適度な刺激を与える運動を続けるように心掛けましょう。

ライフスタイルに合わせて継続しやすい方法を選択。

薬物療法を行う場合には、継続していただくことが何より大切です。痛みなどの自覚症状がないため、患者さんの自己判断でやめてしまいがちですが、元気づちは基本的にずっと投薬を続けていくことになります。薬にはさまざまな種類があり、女性ホルモンと似た働きで骨を壊すのを防ぐ薬（SERM）、骨を壊す細胞の働きを抑える薬（ビスホスホネート）のほか、骨を作る細胞を活性化させる注射（PTH製剤）などがあり、患者さんご本人の骨の新陳代謝の状態を踏まえ、さらにライフスタイルに合わせて継続しやすいものを一緒に考えていきます。



多職種からなる骨粗鬆症チームによる症例検討会

患者さんが治療を継続しやすいよう 情報提供書の作成を始めました。



看護師
森本真理

治療を継続するには、かかりつけ医・クリニックとの連携が欠かせません。そこで看護師からの情報提供書を作成し、食事・運動・日光浴について、患者さん一人ひとりに行った指導内容を記載しています。患者さんについて情報を共有することで、クリニックでの継続的な治療に役立てていただきたいと思います。

Talk
01

毎日の生活の中で無理なく続けられる 食事のサポートを行っています。



管理栄養士
馬原真衣

毎週月曜日に開催されている地域公開ミニレクチャーで、月1回、地域の皆さんに向けて骨粗鬆症を予防する食事についてのお話をしています。また希望される方には個別でどのように生活の中でカルシウムやビタミンDを摂るとよいか、具体的な食材や料理の提案を行うなどきめ細やかなサポートを行っています。

Talk
02

病院からのお知らせ

第4回 聖霊地域健康ふれあいフェスタ開催

今年も地域の皆さまの健康を考え、楽しみながら医療への理解を深めていただけるように企画しています。今年は、昭和消防署から起震車も来場予定。災害などについても考える機会になればと思っています。参加は無料、多くの方々の来場をお待ちしています。



日時 6月15日(土) 10時~14時

場所 聖霊病院 1階・2階・身障者用駐車場

第1回聖霊病院地域医療連携交流会を開催します

地域連携でお世話になっている診療所や病院の先生方との交流会を開催します。第2部の懇親会時に、ご希望の先生方に対しCT見学会を予定しています。ぜひ、ご参加いただきますようお願いいたします。

日時 7月13日(土) 15時

場所 第1部 2号棟4階 第1・2会議室

15時~16時20分

- ▶ 連携報告
- ▶ 講演:大腸CTについて
内科医長 野田久嗣(消化器内科)
- ▶ 各科紹介

第2部 聖霊ホール 16時30分~18時頃

- ▶ 懇親会(軽食をご用意します)

事務部長・伊藤 豊より就任のご挨拶

このたび、4月1日付をもちまして聖霊病院事務部長を拝命いたしました伊藤 豊と申します。当院は1945年10月に設立され、今年で74年を迎えます。この歴史ある病院で仕事をさせていただくことは、責任の重さを感じ身の引き締まる思いがいたします。昨今の医療を取り巻く環境は大きく変化しておりますが、名古屋市昭和区を中心に近隣の地域住民の皆さまの健康を守り、これからも地域

の方々に信頼される病院となれるよう聖霊病院の発展に尽力してまいりたいと思います。当院の理念である「愛と奉仕」、そして慈しみの心をもって医療にあたることを深く心に刻み込み、微力ではございますが森下院長を支え病院業務に邁進していきたいと思っております。前任者同様ご支援くださいますよう、よろしく願いいたします。



新任医師紹介

2019年4月1日から内科医1名、歯科口腔外科1名、2名の常勤医師を迎えました。今後もより一層、地域医療に貢献していきたいと思っております。

内科

熊谷尚子

内科医長
専門領域: 糖尿病内科



歯科口腔外科

柳澤拓明

専門領域: 口腔外科



編集後記

若葉が風にそよぐ爽やかな季節となりました。この春に新生活を始められた方もいらっしゃるかと思います。少しずつその生活にも慣れてこられたのではないのでしょうか。さて平成時代が幕をおろし、5月1日から「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」との願いが込められた新元号「令和」がスタートしました。広報誌「聖風」も、新しい風を感じられる紙面作りをより一層心がけていきます。

企画広報室(加藤)